

「房総のむら」は、参加体験型の博物館です。原始・古代から近・現代までの衣・食・住・技の移り変わりを、当時の環境の中で、直接体験することができます。

開館時間 9:00～16:30
休館日 月曜日（休日の場合は開館し、翌日休館）
年未年始（2024年12月26日～
2025年1月2日）
臨時休館日 2024年5月8日、
2025年1月7日、3月25日
入場料 一般300(240)円 高大学生150(120)円
※中学生以下と65歳以上無料
※障害者手帳をお持ちの方と介護者1名無料

2024年（令和6年）3月31日

編集・発行
千葉県立房総のむら指定管理者
公益財団法人千葉県教育振興財団房総のむら
〒270-1506 千葉県印旛郡栄町龍角寺1028
TEL.0476-95-3333
<https://www.chiba-muse.or.jp/MURA/>

大木戸

トピックス展

「むらのけものたち」

五十一ヘクタールの敷地を持つ房総のむらには、水田や耕作地、森林など様々な環境が存在しています。開館中は、姿を見ることができませんが、閉館後になると、主役は人から「けもの」へと変わります。

房総のむらでは、令和二年から、定点カメラ、痕跡調査などの方法で館内に生息する「けもの」の調査を行いました。定点カメラでは、タヌキやニホンノウサギ、アナグマ、ニホンリスが撮影されました。また、痕跡調査では、タヌキのため糞、ニホンノウサギの足跡やハクビシンの糞などを発見しました。

ため糞とは、タヌキやアナグマに見られる習性の一つです。タヌキは決まった場所に糞をします。何頭ものタヌキが利用し、タヌキたちの情報交換をする場ではないかと考えられています。館内では、ため糞を四ヶ所発見することができました。

展示では、令和二年度からの調査の成果を発表するとともに、剥製や定点カメラで撮影された画像・映像などを通して、館内に生息する「けもの」たちの意外な暮らしを紹介しました。

第一章「けものを探して」では、調査を実施するに当たって採用した、定点カメラ、痕跡調査、目撃情報調査の三つの方法について紹介しました。

第二章「カメラに写ったけものたち」では、定点カメラで撮影されたタヌキ、ハクビシン、アナグマ、アライグマなどをはじめ、調査で生息が確認された十二種類の「けもの」を紹介しました。これらのうち、タヌキ、ハクビシン、アナグマ、アライグマ、ニホンイタチ、ニホンノウサギ、アズマモグラ、アカネズミ、ニホンリスについては剥製を展示しました。

第三章「けものたちの活動の様子」では、定点カメラで撮影された、タヌキを中心とした「けもの」の映像を通して、館内での活動の様子を紹介しました。また、タヌキのため糞から見つかった、木の実や鳥の骨なども紹介しました。これによりタヌキは、ギンナンのほか、小さな鳥も食べていることがわかりました。

四年に渡る調査から、様々な「けもの」が館内で暮らしていることがわかってきましたが、北総地域では貴重なニホンリス、アナグマの調査や、外来種であるアライグマ、ハクビシンの調査など様々な課題があります。これからも定点カメラなどを利用して、館内に生息する「けもの」の調査を続けていきます。

（農家グループ 下村）



定点カメラが捉えたアナグマ



定点カメラが捉えたニホンリス

商家 呉服の店

「合羽摺り ―柿渋染め―」

商家の町並みにある呉服の店での体験のひとつに、柿渋液を摺り込むことで模様を描いてゆく合羽摺り体験があります。

合羽摺りとは、浮世絵版画での彩色技法のひとつで、刷毛と水分を弾く特性のある渋紙に模様を掘った型（紙）を使用します。

型紙は、数枚の薄い和紙を柿渋で塗り、張り合わせて固めた頑丈な紙を用います。これを合羽紙、和染めでは一般的に渋紙と呼んでいます。

江戸時代、渋紙はその特性を生かし雨具の合羽などに使われたことから、合羽摺りの名前の由来となったと言われています。外国語であるポルトガル語の「Capa」から発生し、はじめは油紙や布地で作られた雨の日に衣類の上から羽織る『外套（オーバーコート）』と同じ意味合いで使われていました。



渋紙の型紙と刷毛

柿渋液は、未熟な柿を採取し、粉碎・圧搾してできた渋液を冷暗所で熟成させて作ります。撥水性や耐久性、防霉・抗菌・防虫効果、時には薬にと数々の特性をもち、古くから日本で利用されてきました。

草木染めのひとつでもある柿渋染めは、染めてみると始めは薄い茶色をしていて、うまく摺り込めていないと不思議に思われる方も少なくありません。この染めは時間をかけ、太陽や熱などによって濃く変化してゆくという面白い特徴があります。そのため、太陽染と呼ばれることもあるそうです。

呉服の店では、年間を通して柿渋染めによる合羽摺り体験を行っており、三十分ほどで行える手軽な体験となっています。

体験時で完成せず、使用している中で変化や表情を楽しむことができる面白い体験です。ぜひ一度、足を運んでみてください。

（商家グループ 牧）



柿渋染めを使った合羽摺り

風土記の丘資料館

「展示解説会」と

「展示説明」

風土記の丘資料館では、展示について、多くの方々に理解していただくために、リニューアルオープン後、月に一度、来館者を対象とした風土記の丘資料館職員による新演目「展示解説会」を実施してきました。また、学習支援として学校等の団体見学者を対象として、以前から実施していた「展示説明」（事前予約制）も同様に実施しています。

展示の内容については、一階第一展示室は、「龍角寺古墳群と龍角寺」をテーマとして「古墳の世界へようこそ」「前方後円墳から方墳へ」「仏教を受け入れる」「律令社会への胎動」の四つの柱から成る展示となっています。二階の回廊展示では、前半部が【大地に刻まれた記憶】と題し、千葉県の旧石器時代の展示、後半部が縄文時代から古代までの【祈りの世界】についての展示がされています。そして、二階第二展示室では、県内北部の遺跡より出土した資料を中心に、縄文時代から奈良平安時代までの【生活と文化】を紹介しています。



今年度実施した「展示解説会」では、午

前に一時間ほどかけて二階の展示についての説明を行い、午後は同じく約一時間かけて第一展示室の説明を行いました。参加者の方々は皆さん歴史に深く興味を持っておられ、知識も豊富で、時折鋭い質問をされることがありました。

一方、今年度「展示説明」を利用された団体としては、県内及び近隣の小・中学校が授業の一環として利用されていることが多く、また、一般の歴史に興味のある方々の団体申込みも少数でしたがありました。学校の利用では時間的な制約もあり、三十分程度の説明でしたが、多くの生徒が熱心に説明を聞いている姿が印象的でした。「展示解説会」、「展示説明」は令和六年度も引き続き実施する予定ですので、多くの方々に利用していただきたいと思えます。お待ちしております。

（風土記グループ 野口）



展示説明風景

調査研究

「木塚地区」のオダチ行事

栄町を含む利根川沿いの地域では、かつて夏祭りに御太刀をもむ風習が広く分布していました。「オダチ」は、木製の大太刀・小太刀を若衆や小中学生が担いだり、もみながら地区内をまわる行事で、五穀豊穡や地域の安全を祈願するといえます。

令和五年七月二十九日（土）、栄町の木塚地区にある厳島神社の裏山に鎮座する阿夫利神社で、オビシヤの若衆が中心となり、四年ぶりに従来の祭礼の形に則った「オダチ」行事が行われました。

午後二時四十分、厳島神社拜殿で祝詞奏上と玉串奉奠が行われ、神主がオダチ（大太刀と小太刀）を浄めた後、阿夫利神社（石尊様石宮）での祝詞奏上と浄めを以って午後三時十分に神事が終了しました。

子供たちの小太刀と山車が神社を出発すると、午後三時四十五分に世話人が賽銭集めに家々を回り始めます。境内で大太刀を再度浄め、小太鼓と大太鼓によるお囃子が終わると、いよいよ大太刀の担ぎ出しとな



オダチの担ぎ出し



オダチをもんでいる様子

ります。午後四時三十分、若衆十人で大太刀を担ぎ、社総代の先導で神社を出発、途中、数力所での休憩を挟み、大太刀をもみ歩きながら集落を一周し、午後九時過ぎに行事が終了します。

「もむ」とは、大太刀の先頭と最後尾の若衆が舵取りとなり、他の若衆が大太刀を担いで蛇行しながら、時には上下に動かしながら、「アナヨット、ナンダヨット、もめもめ」の掛け声や、「山で赤いのはつっじに樁よ…」などの歌と共に大太刀をかついでまわることです。以前は田んぼの中に入ることもあり荒々しいものであったとい

います。他地域で行われていたオダチ行事では、終了した後に川に入りオダチを浄めたりするものもありましたが、木塚地区の行事では川に入ってオダチを洗い浄めることはせず、翌日に拭き浄めて拜殿に奉納します。現在は各地で失われてしまったこの行事が、木塚地区でこれからも続いていくことを願うばかりです。

（商家グループ 宮内）

その他活動

「北総江戸めぐりー浦安市」

当館の館外イベント「北総江戸めぐり」が昨年十一月十九日に行われました。

毎年二回実施しているこのイベント、今年度二回目は浦安市を当館職員含め、総勢九名でめぐりました。

埋立事業によって、テーマパークや商業施設などの人々の集まる観光エリア、一戸建て住宅・マンションなどの住宅地、鉄鋼の流通・加工を行う工業地区などが存在し、様々な顔を持つ浦安市ですが、かつては漁師町として栄えていました。

今回訪れたのは埋立事業が行われる前から存在する「元町エリア」です。まずは浦安駅から徒歩十分ほどの距離にある、「清瀧神社」「宝城院」へ向かいました。続いて向かった「旧宇田川家住宅」と「旧大塚家住宅」では、ボランティアの方から施設の概要説明を受けました。

昼食を挟み、午後には訪れた「浦安市郷土博物館」では、我々が訪れるつい数日前に一部展示をリニューアルしていたことや、学芸員による浦安市の歴史の説明に加え、博物館前で「浦安市細川流投網保存会」による投網実演が行われており、事前調査で訪問していた我々職員にも新たな発見がありました。

郷土博物館を後にし、浦安駅へ戻る道中、最後に訪れたのは高さ約十四メートルの大銀杏が目を引く「豊受神社」と、隣接する

「花蔵院」でした。

どの見学場所でも参加者の皆様は職員の説明を熱心に聞いてくださったことや興味深そうに見学している様子が印象的でした。

半日かけて町中を徒歩で移動しましたが、目的地へ向かう間、参加者の皆様同士で意見交換をするなど、知識だけでなく交友の輪が広がったことは担当職員としてとても嬉しく思いました。天候にも恵まれ、実りあるイベントとなりました。

今年度の北総江戸めぐりへ参加していただきました皆様へ改めて感謝申し上げます。

次年度についても、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

（広報・普及グループ 岩瀬）



「花蔵院」を見学

「昔のあそびボランティア」

房総のむらでは現在七つのボランティアが活動しています。今回はそれらの中から昔の遊びボランティアについて紹介いたします。

昔のあそびボランティアでは昔のおもちゃ、主にコマやベーゴマの遊び方を教えています。この他メンコやけん玉、竹馬などの遊び方も教えており、週末のお天気の良い日に、下総の農家で行っています。

初めての方には、紐を巻いたコマ・ベーゴマを使って遊んでもらいます。紐を巻くところから始めると、回すところまでたどり着かない、紐がうまく巻けていないために回すことができないといったことになってしまつからです。回すことに慣れてもらい、それから紐の巻き方を覚えてもらうようにしています。

子どもだけでなく、大人も夢中になっています。ちょっとしたつもりが一〜二時間回し続けている光景もよく見かけます。多くの方は最後には回せるようになり、中にはコマ・ベーゴマを回すために再度来館する方もいます。

今年度は新たに、紙芝居の上演も行いました。これまで館のイベントで講師に上演をお願いすることはありませんでしたが、今回は初めてボランティアのみで実施しました。

紙芝居は今年度三回、実施しました。一回目は六月十八日に上総の農家、二回目は七月三十日に総屋近くの東屋前、三回目は

十一月十二日に悪天候のため総屋一階で行いました。いずれも午前十一時と午後一時三十分から、それぞれ三十分、三話ずつ行いました。

これまでのイベントの日ではなく、普段の日曜日の実施でしたが、一回目は三十七名、二回目は八十名、三回目は五十名の方に参加いただけました。園路沿いの東屋前に変えたことが、通りかかった方の参加に繋がったようです。

紙芝居については不定期になってしまいますが今後も開催する予定のため、コマ・ベーゴマとともにぜひご参加ください。

(農家グループ 高原)



紙芝居の様子



まつり開催時の注意事項

まつり当日は駐車場が大変混雑いたします。公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。

また、館内はテント類の設営、ボール等の遊具の持ち込みは禁止です。まつり開催期間中は、コスパレでの撮影の予約はお受けしておりません。ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

◇編集後記◇

寒暖差の激しかった冬が明け、暖かな日が増えてきました。

昨年四月にリニューアルオープンした風土記の丘資料館は、トピック展「千葉の行商」「むらのけものたち」、現在は五月十二日まで「千葉県誕生一五〇周年記念」事業として当館所蔵の絵葉書の展示を行うなど早速大活躍しています。

来年度もお楽しみいただける企画や体験をご用意し、皆様のご来館をお待ちしております。

(広報・普及グループ 岩瀬)

令和6年度上半期のイベント

- 春のまつり
5月2日(木)～6日(月・振休)
- 伝統文化入門
5月26日(日)・9月29日(日)
- 房総座
6月2日(日)
- 北総江戸めぐり
6月9日(日) 佐倉市
- むらの縁日・夕涼み
8月3日(土)・4日(日)
- 展示「地中からのメッセージ～旧石器・縄文・弥生～
-千葉県教育振興財団設立50周年記念展 part 1-
9月21日(土)～11月17日(日)

※上記以外に多くの実演・体験をご用意しております。詳細は令和6年度体験のしおり、または当館ホームページをご覧ください。